

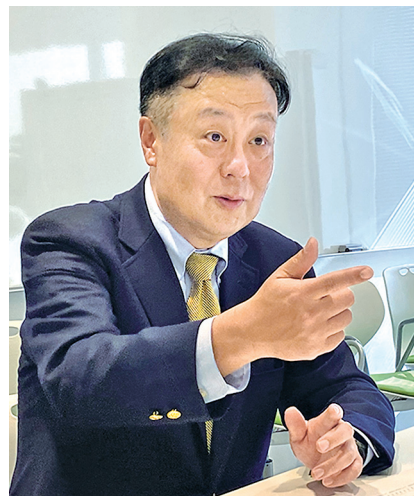
「レアメタルをめぐり事業環境は。」

「昨年から今年にかけては世界経済がコロナ禍から回復傾向となったことに加え、世界的な脱炭素化の流れの中でレアメタル、レアアースの需要は好調に推移している。価格も需要増加に加え、コロナ禍に伴う物流の混乱もあって昨年を上昇傾向にある」

「ロシアのウクライナ侵攻によるレアメタル業界への影響は。」

「ニッケル、パラジウム、チタンなど一部の金属を除けばレアメタルへの影響はそれほど大きくないと見ている。タンクステンも鉱石ベースで見ればロシアの世界シェアは3%程度、供給力にリサイクルも含めれば実質2%あるかという程度だ。ニッケルもロシアの需要自体はそれほど

福田 聡社長に聞く



「アドバンストマテリアルジャパン」 レアメタルの事業環境と戦略

国内での「資源循環」重要

使用済み車 載電池など リサイクル事業強化

れで良いのかという再考を促すきっかけになるかもしれない」

「レアメタル全般に言えるが、これまでは中国への依存度が高いためにベトナムやロシア、アフリカなど他地域への供給源の多角化に向けた取り組みが進められてきた。これは重要な取り組みであるが、一方でそうした国々もゼロリスクではないため、国内での資源

「モスクワ事務所にマレーシアに、中国やミャンド、中央アジアなどから輸入しているが、世界で脱レアアース磁石などの技術開発も廃基板もポテンシャルがあると考えている。シンガポールも業務を起点に取り組みを強化したい。また、中国の重希土類に依存せざるを得ないので池のリサイクルに注力しようと考えている。」

「今後の事業展開についてもお伺いしたい。今後注力する池リサイクルの前処理の受託も増えており、

大きくはないし、世界にないか。一方で供給懸念を背景としたニッケル価格の高騰は代替の動きにつながる可能性がある」と

「ウクライナ危機による御社事業への影響は。」

「ロシアに依存する商品はありませんか」と

「ロシアに依存する商品はありませんか」と

「中国のレアアース企業が統合が、どちらかと言えば再編されてプライマリ原料が中々見つからない。国にも例えは原料を取った顧客で発生したスクラップを預かり、受託溶かして原料にして戻す前処理をして返すというふうな委託加工にも取り組んできたが、その蓄積してきたノウハウを生かした事業展開を図りたい」

(相築 孝一)

